

とうきょうすくわくプログラム活動報告書（エンゼル組）

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ（0歳児 エンゼル組）

<テーマ>

秋を感じよう！秋の自然で遊んでみよう！（どんぐり・落ち葉）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

秋を感じる季節となり、公園でたくさんのだんぐりや落ち葉が落ちていている。秋の自然を感じながら、様々な自然物に触れ、遊んでみる体験を保育者と一緒に楽しむためにこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

11月17日秋の自然物探し（どんぐり・落ち葉）
11月18日どんぐりを使って遊んでみよう！（どんぐりころころ装置）
11月19日たくさんさんの落ち葉に触れる
11月27日どんぐりマラカス作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

お散歩バック：牛乳パック・画用紙・絵具・ローラー・シール
どんぐりころころ装置：牛乳パック・ガムテープ・はさみ
どんぐりマラカス：小さいペットボトル、シール、どんぐり

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

11月17日秋の自然物を探す。どんぐりや落ち葉等、自然物を拾う。
11月18日保育者が牛乳パックでどんぐりころころ装置で転がして遊ぶ
11月19日たくさんの落ち葉に触れ、感触を楽しむ
11月27日小さいペットボトルにどんぐりを入れてマラカスをつくる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

葉っぱやどんぐり、落ち葉を見つけると「はっぱ!」「あった!」等、保育者に見つけたことを知らせながら嬉しそうに拾い、お散歩バックに入れて集めることを楽しむ姿が見られた。見つける面白さを味わいながら、葉っぱを降らせてみたり、ちぎってみたり、踏んできたりと様々な遊びを一緒に楽しむことができた。次の活動では、どんぐりを使った遊びができるよう、どんぐりを転がせる装置を設置し、保育者が転がして見せると、転がったどんぐりを拾ったり、真似して転がしてみたりして遊んでいた。「ころころ転がるね」等、言葉しながらお子さまに関わり、興味関心を高められるようにした。どんぐりマラカス作りでは、手にどんぐりを持つことを楽しむ姿があったが、保育者がペットボトルに入れて見せると、どんぐりを入れることを夢中で楽しむ様子が見られた。マラカスが完成するとシヤカシヤカ振って喜び、みんな德音楽に合わせて音を鳴らして楽しむことができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

はじめは自然物を拾う遊びから始まり、見つけたことを喜び合う姿があったが、落ち葉を降らせてみたり、踏んでみたりと様々な遊びを保育者が見せることで、お子さま達の遊びの発見となり、自発的に遊ぶ姿に繋がった。保育者との安心した関りの中で手に触れてみる、踏んでみる、転がしてみ、音を感じてみる、鳴らしてみ等、自然を全身で感じながら遊ぶことが出来た活動となった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ> (1歳児ハッピー組)

どんぐりや木の実、落ち葉を探したり拾ったりして、秋の自然物に親しむ、触れる。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

・秋になり、よく行く公園に様々なドングリや秋の自然物が見られ始め、地面に落ちている自然物を興味深々で拾う姿がみられた。

2. 活動スケジュール

10月10日～自然物を拾う

10月16日 お散歩バック制作

10月23日～お散歩バックを使って戸外で自然物探し、拾い

11月12日 ドングリマラカス作り・どんぐりマラカスを鳴らしてみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

牛乳パック、色画用紙、両面テープ、ペットボトル、キラキラモール、ドングリ、すずらんテープ、ハサミ、

<活動の内容>

お散歩バックを作り、拾った自然物を入れて楽しむ。拾ったどんぐりを冷凍庫で一晩寝かせて、次の日乾燥させるために出して冷たいどんぐりの触感を楽しんだ。自分で選んだペットボトルにドングリをやキラキラモールなどを入れて、オリジナルのマラカスを作った。音楽に合わせて一緒に鳴らして音を楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

戸外で遊ぶ時にどんぐりを拾う姿が見られた。「大きい丸いドングリだね」「帽子かぶっているね」「皮がむけているね」などと、会話を楽しみながらドングリ拾いに夢中になっていた。保育者に見せてくれたり、集めたりしてビニール袋に入れて持って帰っていた。

その都度お持ち帰りをすると、お家でもドングリに触れたり、飾ったりしているお話を保護者の方からも聞いていた。どんぐり拾いがさらに楽しくなるようにバックを作った。

お散歩バックを肩からかけると、嬉しそうにする姿が見られ、「ここにどんぐりいれる」とカバンいっぱいドングリを拾っていた。蓋つきのバックだったが、自分で開けたり閉めたり上手に扱っていた。

ドングリが入ったバックがコロコロと音が鳴り、「コロコロ素敵な音がするね」と保育者が声をかけると、バックを振って音を楽しむ姿も見られた。

バック作りや、マラカス作りでは、シールを貼ったり、ペットボトルにドングリを入れたり、指先を使って微細運動にも繋がった。

完成したマラカスを音楽に合わせて鳴らして音楽活動にもつながった。何度も振って音を楽しんだり、中に入っているドングリを観察したり、振った時の感触を楽しんだりする姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

どんぐりを拾う姿から、お散歩バックを作り、入れ物があることで拾ったものをすぐに入れる場所があり、拾う楽しさをさらに見出すことができた。

蓋つきの入れ物にすることで、開けたり閉めたりとその楽しさもあり、こぼれないように考えて閉めている姿も見られた。バッグ作りも一工夫することで、入れる楽しさも広がることのできたと思う。

マラカスづくりではドングリやモールをつまんでペットボトルの口に入れる微細運動にもつながり、集中して行っていた。自分の好きな物や遊びの中で取り入れることで、夢中になっで行うことができたのだと思う。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ> [1歳児ハッピー組]

戸外活動で季節の虫を見つけたり、触れ合ったりして、身近な生き物と親しむ。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

戸外で見られる虫を見つけると、興味津々で保育者に指差しや言葉で教えてくれる姿が見られた。

2. 活動スケジュール

4月11日～ 虫を見つけ、興味を示す。保育者の手に乗せて観察したり、自分の手に乗せて触れる。

5月 9日～ 虫かごでダンゴムシを飼育。

5月20日 ダンゴムシのお家作り。

6月 2日 ダンゴムシにご飯をあげる。

6月30日 カブトムシに触れる。観察。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

虫かご、野菜、

<活動の内容>

戸外先で見つけた虫に興味を示し、触れたり、観察したりする。虫かごを用意し、虫かごで飼育をはじめ、保育室でも興味を深める。ダンゴムシのお家づくりでは、枯れ葉や土を入れた。エサは使わない野菜の部分（ニンジンの皮など）を調理室からもらってあげた。食べている様子を観察した。

3～5歳児クラスで飼育していたカブトムシに触れたり観察したり、大きい昆虫にも触れた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

戸外で虫を見つけると「あ！あ！」「いた」などと保育者に知らせる姿が見られた。保育者の手に乗せると、身を乗り出して興味を示した。「触ってみる？」と声をかけるとゆっくり手を伸ばして勇気を出して触れたり、自分の手に乗せて見たりと、主体的に触れる姿が見られた。苦手なお子さまは、保育者の手に乗っている虫を見たり、虫かごの外から観察した。みんなが食べているニンジンやダンゴムシにあげると、不思議そうにしながらも、翌朝ニンジンの上に沢山のダンゴムシが集まっている様子を見ると「たべてる！」と嬉しそうにしていた。

カブトムシでは、初めは怖がる姿があり、遠くから見ているが、「お兄さんお姉さんと一緒に触ってみる？」と促すと何人かはつの部分を掴んでみたり、触れたりしていた。机の上を歩いている様子をじっくり観察したり、5歳児くらすのカブトムシハウスに入ってみたり、少しずつ苦手意識が薄れていく様子に見られた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

戸外先ではあまり興味を示さなかったが、お部屋に虫かごを置いておくと、興味がなかったお子さまも次第に興味を示し始めていた。環境設定は興味を引き出す大きな要因であることを改めて感じた。

ダンゴムシがニンジンを食べることは、1歳児にとって自分たちと同じ食べ物を食べることが分かりやすいからか、嬉しそうにしたり、よく観察していたり、興味をさらに示していた。

カブトムシは大きく、あまり見ない昆虫なので、怖がる様子があったが、お兄さんお姉さんが触っている様子を見ていると次第に興味を示していた。保育者よりも、自分たちの身近なお兄さんお姉さんが触っている様子が安心したり、触ってみようという気持ちになったのだと感じた。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ> 2歳児ドリーム組

・自然

どんぐりの形や大きさ比べ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

どんぐりの形や大きさの違いに気付き、保育者やお友だちに共有するお子さまが増えてきたため。日頃から、戸外へ遊びに行くときやお散歩バッグでどんぐりを持ち帰ることを楽しむ姿が見られているため。

2. 活動スケジュール

11月頃 (1日目)

戸外へ行きどんぐりを拾って集める。

(2日目)

お部屋で画用紙の上に広げて観察し大きさや形を比べる。

画用紙にどんぐりを種類ごとに並べて貼りつける。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

どんぐりの種類の載った図・袋・お散歩バッグ・画用紙・ボンド

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

戸外へ行き、どんぐりを拾い、袋やお散歩バッグに集めた。お部屋に持ち帰り、どんぐりの大きさや形を比べながら観察した。ドングリの種類の載った図を見ながら種類ごとにどんぐりを分ける。画用紙にボンドでどんぐりを種類ごと貼り付ける。完成したらお部屋に飾る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ドングリや落ち葉を拾いながら「おおきいよ!」「まるいどんぐりだよ」など大きさや形に興味津々な様子があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お子さまのどんぐりへの興味関心から活動を広げたことで、楽しみながらどんぐりの違いを学ぶことができた。様々などんぐりの種類から大きい・小さい・形などを知ることができた。どんぐりなど秋らしい自然物に触れて季節を感じることもできた。保育者はお子さまが自由にやりたいことを伝えられるように、保育者が先に言うのではなく、お子さまに意見を委ねるようにしていくことが大切だと分かった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

3歳児ホープ組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「興味のある空について探求する」

「想像したものを形にしてお部屋にかざる」

「遊びの中で面白いと思ったことを発表する」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

戸外で雲を見つけて「サメみたいな形!」と見立てているお子さまをきっかけに、雲への興味がクラスへと広がっていったため。

2. 活動スケジュール

- ・ 4/4～ 雲を見つける、雲探し ・ 5/1 雲をいろいろな形に見立てる
- ・ 5/7 雲について図鑑で調べる ・ 5/20 えのぐを使って空の絵を描く
- ・ 5/21 模造紙、えのぐ、ローラーを使って、大きな空を作る
- ・ 6/3 お天気調べ (雨粒ってどんな形かな?) ・ 6/5 お部屋に雲をつくる
- ・ 6/18 虹をつくる ・ 6/27 太陽・夜の空・天の川をつくる
- ・ 7/2 空飛ぶお家づくり ・ 7/10 空の旅に招待

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ タブレット ・ えのぐ ・ ローラー ・ 模造紙 ・ 生活素材 ・ わた ・ 紙粘土
- ・ 画用紙 ・ 新聞紙 ・ テープ ・ お花紙 ・ いろいろな雲の写真 ・ カラーポリ袋
- ・ 小麦粉 ・ ボウル ・ ふるい ・ ダンボール ・ モール ・ 折り紙 ・ プロジェクター
- ・ パーテーション

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・雲をいろいろな形に見立てて名前をつける ・図鑑を使って雲の研究
・戸外でえのぐを使って空の絵を描く
・お部屋にお子さまの作りたいもの（空、雲、太陽、虹など）をつくる
・お天気調べ ・手作りの空飛ぶお家にお客さんを乗せて空の旅に招待（いろいろな形に見立てた雲を紹介）

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

タブレットを使用し、お子さま自身で、見つけた雲の写真を撮ることで、多くのお子さまが興味を持ち活動に参加していた。撮った写真は名前を書いて飾り、お友だちの作品を見ながらお子さま同士の会話が広がった。また、空の絵をえのぐで描くと、えのぐの楽しさを感じ、みんなで模造紙を使って大きな空を作るという経験に繋がっていた。みんなで作ったものを作り、「次は雲を作ろう！」「わたあめで作っただらいいと思う！」と次々とアイデアが出てきた。最後は空の旅にお客さんを招待することで、今までの学びを堂々と発表し、やり遂げたことで自信につながった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お子さまが興味を持ったその時に、写真掲示をしたり、楽しめる道具を使うなどの環境設定をすることで、もっと雲について知りたいという気持ちが高まったように感じた。また、異年齢との関わりから「私たちも〇〇組さんみたいに発表したい！」という次のワクワクするアイデアが生まれるきっかけになった。
空飛ぶお家づくりではみんなで1つのものを作りあげること達成感を感じ、空の旅ではお客さんの前で今まで楽しんで探求してきた雲のことを発表することで自信にも繋がった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

3歳児ホープ組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「秋の自然に触れる」

「自然物を使って楽しい遊びを考える」

「自然物を使って、みんなで1つのものを作り上げる経験をする」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

三つ目山冒険あそび場で、木の実などの自然物を使ったおままごと遊びをする姿がみられ、お気に入りの自然物をお持ち帰りしたりと、興味を持っている姿がみられたため。

2. 活動スケジュール

・10/28自然物集め ・10/29自然物にえのぐで色をつける ・11/10どんぐりこま作り・自然物を使った制作 ・11/27～どんぐり転がし装置作り
・12/9～クリスマスツリー作り ・12/11飛行機作り ・12/12～お家作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・どんぐり ・落ち葉 ・木の実 ・木の枝 ・木材 ・ノコギリ ・トンカチ ・釘
・きり・ボンド・えのぐ ・ダンボール ・毛糸 ・ネジ

4. 探究活動の実践

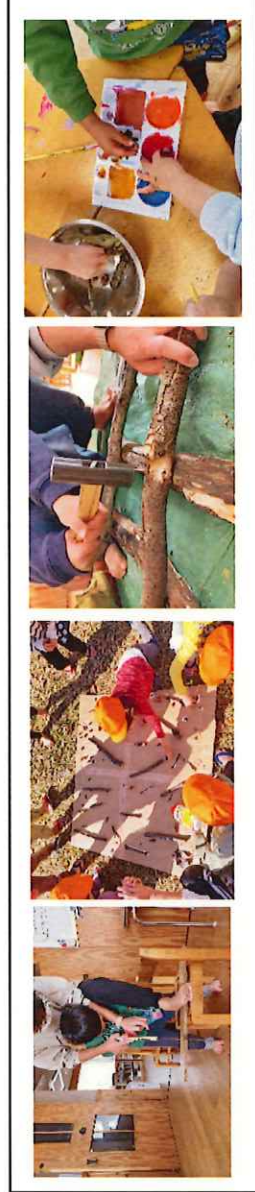
<活動の内容>

- ・自然物を使っておままごと遊び ・自然物にえのぐで色をつける
- ・どんぐりや木の枝を使ってこまを作る ・どんぐり転がし装置を作る
- ・ノコギリやトンカチを使って想像したものを作る（飛行機・鉄砲・おうち）

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

三つ目山冒険遊び場で自然物を使ったおままごと遊びをしたことをきっかけに、自然物に興味を持って集めるようになってきたため、持ち帰った自然物で何かを作ることになった。自然遊びの図鑑を用意しておくと、図鑑に載っているこまを作りたいという声が聞かれた。きりやノコギリ、トンカチなどの工具も、お子さまのやりたい気持ちを尊重し、保育者の補助付きでできるだけお子さまに経験してもらおうようにすると、工具の使い方覚え、安全な使い方を考える力も育った。また、そこから制作の幅も広がり、飛行機づくりやお家作りのアイデアにも発展していった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段お子さまが使わないような工具を使う経験をすることで、興味の幅が広がったように感じます。危ないからだめと決めつけるのではなく、どうやったら安全に使えるのかをお子さまと一緒に考えることもお子さまの成長や、やってみたい！という気持ちに繋がっていったので大切だと思いました。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

3歳児ホープ組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

虫

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

戸外で捕まえた様々な虫を飼育することや顕微鏡で観察することにお子さまが興味を持つことができたため。

2. 活動スケジュール

- ・4/10～ 戸外で見つけた虫を顕微鏡で観察 ・4/14 カブトムシの幼虫探し
- ・4/15 カブトムシの研究 ・6/13 ベニフキノメイガの観察
- ・6/16 芋虫の観察 ・6/17 いも虫の生体調べ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・虫網 ・顕微鏡 ・テレビ ・虫かご ・いも虫を入れるビン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・虫を捕まえて、観察する
- ・捕まえた虫を顕微鏡を使って観察する
- ・カブトムシの幼虫を捕まえて顕微鏡で観察し、飼育する
- ・保育者に貰った虫を顕微鏡で観察する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

公園で虫を捕まえることに夢中になっていたので、部屋に戻って顕微鏡で観察をすることで、目で観察した時とは違い、小さな模様や口の形などにも気が付くことができた。顕微鏡で観察している時には、気が付いたことをお子さま同士で言葉での伝えあっている姿も見られるようになった。また、気が付いたことを友達に伝える嬉しさを感じることができ、気が付いたことを自信をもって発表する姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

顕微鏡で小さな部分の観察をすることで、戸外で見つけたものをお子さまが進んで顕微鏡で観察する姿が見られるようになった。カブトムシの観察を通して、小さな変化や小さな命を大切にする姿も見られるようになった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

3歳児ホープ組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

惑星

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

太陽に興味を持って調べたり観察したりしていく中で、月や地球など他の惑星にも興味を持ち始め、十五夜が近かったため、月について詳しく調べたり観察したり製作したりして、活動を行った。

2. 活動スケジュール

・9/3月の観察～眼鏡作り～ ・9/5太陽はどこに行くの? ・9/8月調べ ・9/9月の満ち欠けの製作 ・9/10月の満ち欠け調べ ・9/11大きな月作り ・9/12月作り～月の模様～ ・9/16望遠鏡で月の観察 ・9/17望遠鏡で月の観察 ・9/18プラネタリウム作り ・9/29プラネタリウム遊び ・9/30十五夜のお団子作り ・10/1折り紙でススキ作り ・十五夜の話聞いて、お月見ごっこ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・タブレット・モニター・図鑑(うちゅうせいざ) ・画用紙 ・セロハンテープ ・糊
・望遠鏡 ・OPPO ・絵の具 ・紙粘土 ・折り紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・太陽を観察するため眼鏡作り ・太陽の動きを調べる ・図鑑を使って月の模様や大きさを調べる。 ・画用紙で月の満ち欠けの制作 ・月の満ち欠けについて調べる ・オリジナルの月作り ・月作り～月の模様～ ・望遠鏡で昼間に見える月の観察をする。 ・プラネタリウム作り ・十五夜の飾り ・お団子やススキなどを飾って十五夜のお月見ごっこ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

太陽の観察から始まり図鑑で太陽を調べたときに他の惑星にも気が付き、様々な惑星調べに繋がった。惑星の中でも月に着目して月の満ち欠けから、十五夜の活動へ広がった。月の満ち欠けのカレンダーを部屋に置いておくことで、お子さまがすすんで月を観察したり日記に書いたりしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

太陽の観察の時には眼鏡を作ったり月の満ち欠けの観察の時には満ち欠けの仕掛けを作ったりして、観察だけでなくお子さまが身近に感じられるように制作物を作ること、観察を楽しんだり、月の満ち欠けの変化に気が付いたりする姿が見られた。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ(4歳児 レインボー組)

<テーマ>

自然 海

海への興味関心から広がるお子さまの知りたいやりたい

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

春の自然探で行った公園にあった池。池にいる生き物について話をしていると「カニは？貝は？キンメダイは？海にいるんだよ！」と海への興味が広がっていった。お子さまの知りたい、興味関心、探求心をどんどん広げていきたい。

2. 活動スケジュール

5月27日に「海の豊かさを守ろう」というテーマで「うみがめものがたり」の絵本をみんなで読む。うみがめが海でごみを間違って食べてしまうことを知り自分たちにできることは何かを考えた。

もっと海のことを知りたいということで6月2日、魚屋さんに手紙を書いて渡し、お返事も頂いた。みんなが取り組んでいるゴミひろいでお魚は元気になることを知ることができた。

どんどん広がる海への興味関心。7月10日にはダイビングインストラクターさんからも海や生き物、環境について話を聞くことができた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・図鑑各種
- ・海や海の生き物に関する絵本
- ・海や海の生き物に関わる人達と関わる機会
- ・電子黒板・ipad

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・様々な公園にある池等を見に行く
- ・戸外に行くとき自然と始まるゴミ拾い
- ・保育園に出入りする魚屋さんと手紙のやりとり
- ・興味関心が広がるような図鑑や絵本を読む
- ・ダイビングインストラクターさんとZoomで話をする
- ・お部屋を海にしよう
- ・「うらしまろう」の劇遊び

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・「海の生き物を守ろう」「地球を守ろう」という気持ちが育まれ、戸外に行く道や公園でごみを見つけるとサッと拾うお子さまたち。拾ったゴミは分別もしっかりと行っている。
- ・一人がゴミ拾いを始めると「ぼくも！わたしも！うみをまもう！」と自然にお友達が増えてく様子がみられる。
- ・海について知りたいことを自分の言葉で保育者に伝え、魚屋さんやインストラクターさんにも質問していた。
- ・興味関心は創作意欲にもなり、お部屋を海にしよう！と様々なアイデアをお友達同士で出し合い、素敵な海を表現していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・戸外にでかけると「せんせい！ごみある！」「トングかして！」と自然と始まるゴミ拾い。「カメも喜んでるね！」「これで小さなお友達も安心だね」と声をかけると満面の笑みをするお子さまたちです。海への興味関心から広がって、お子さまたちの心に育まれていった「海を守ろう！地球を守ろう！」という思い。自分たちの住んでいる世界を大切にしたいと主体的に行動する姿はに大きな成長を感じる。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

5歳児 コスモス組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

<音・自然> 鳥について探求を深める (鳥の鳴き声から自然の中の暮らし、命)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色)

5月にバードコールを制作したことをきっかけに、お子さまたちは「鳥」への興味を一気に深めていった。音を鳴らすと鳥が返事をするように鳴いてくれる体験が、おもしろく、どんな鳥がいないのか？ 違う音がした！ 違う鳥だ！ と心が動かされる自然と関わる楽しさを実感するものになりました。保育もお子さまの興味をもったことを、いろいろな仕掛けや工夫を通して、探求し、深めていくことが特色なので、この体験を大切に、探求は広がった。

2. 活動スケジュール

5月…バードコールづくり・鳥の音、鳴き声・どんな鳥がいるの？

・調べたことを発表しよう！ (鳥クイズ・発表動画づくり)

6月…野鳥を観察しよう！ 鳥の声を調べよう！・鳥の餌づくり

・餌箱がカラスにもっていかれてしまった事件！・駅のつばめを観察しよう！

・フェルトで鳥をつくろう！

7月…野鳥の会の人をよんでお話を聞こう！・カラスの巣を発見！・お部屋を森にしよう！

8月…つばめの旅立ち・紙粘土ではく製づくり (展示会)

9月・・・鳥の巣について調べてみよう！

1 10月・・・いろいろな鳥の巣づくり

1 11月・・・鳥についての創作ミュージカルのお話づくり

1 12月…創作ミュージカルで発表

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

コスモス組の保育室を「森」のようにして、自然の中にあるような空間をつくった。

・望遠鏡を設置し、お部屋の窓から、外を飛んでいたり、電信柱にいる鳥がいつでもみられるようにした。

・鳥の図鑑や写真、模造紙やテプラで調べたことをすぐにまとめられるようにし、展示をすぐしてみんがみられるようにして、今日共有できるようにした。

紙粘土や絵具をいつでも自由につかえるようにした。

展示の仕方も自分たちでできるように、棚を増やしたり、すぐに形にできるようにした。

(道具)

天体望遠鏡・oppo・電子黒板・iPad・送受信機・iPad変換ケーブル・顕微鏡・書画カメラ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

目力をつけて鳥を調べたり、野鳥の云々の力加がわわ舌を聞いたワレは、

関心はどんどん深まっていった。

望遠鏡で外の鳥を観察したり、オリジナルの図鑑をつくったり、紙粘土で鳥を制作して展示するなど、活動は大きく広がった。

「鳥の巣」に注目し、巣の形や高さによって暮らし方が違うことを学び、

実際に巣づくりににも挑戦した。

その中で、お子さまたちは、自分たちで役割を決め、アイディアを出し合い、友だちと協力しながら取り組む姿がみられた。戸外でも鳥をみると、種類などをみてわかるようになっていく。また野鳥を見なくなっていることを学び、地球温暖化も関係していることを知り、地球の自然にも興味関心をもっていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

鳥の名前や特徴を自分たちで調べたことによって、友だち同士で教え合う姿がみられた。また、調べたことを発表する機会を何回もあったことにより、自分たちの役割をお子さまたちで決められるようになった。

「ここに巣があるかも」「あの鳥は、昨日もいたよ」など、観察をしている中で気づきや発見をみんなに共有できた。また、ツバメの観察では、赤ちゃんのツバメを、毎日観察しに出かけたり、保育園へ向かう朝、帰りの時間にも保護者と見に行くほど、興味関心は深くなり、みんなで、「今日、ツバメの巣をカラスが狙っていたかもしれない!」という事件のような出来事があり、そこから、カラスは、悪い鳥なのか? 優しい鳥なのか? など、お子さまたちの関心が大きくまた広がった。自分たちが好きな鳥もそれぞれあることで、17羽の鳥のはく製作の際に、鳥の特徴もそれぞれ調べたり、部屋を暗くして、ライトを当てて、暗い夜のようにしながら、はく製のライトを当てる遊びなど、カラスの天敵の鷹をみんなで、共同作業で作ったときには、工夫をしながら、乗って飛んでいるようにしてみたり、遊び方のアイディアをみんなですべてしている姿がみられた。

鳥の巣づくりも、色を塗る人、形をつくるひと、鳥を作る人など役割がかなり明確になり自然にと分担する姿がみられた。保育者ともこんな巣があったらいいね! 鳥さんも住みやすいよね! など対話をしながら、活動が、どんどんと広がっていった!



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

お子さまたちが、もっと知りたい！なんだろう？感じた瞬間を逃さず、環境を整えることで活動が大きく発展し、また、深めていくために、継続していきけるような環境を整えていくことが大切だと感じた。役割や協力の場面が、お子さまたち自身によって自然とうまれ、意見を出し合いながら、進める力が育っていることを実感しました。調べる、作る、観察する、やってみてみたいとおもったことを、すぐに実践することが主体的に取り組む力になったと感じた。

この1年間の経験が、創作ミュージカルでオリジナルのお話になり、自分たちで演じること、集大成の出来事となると思います。お子さまたちの思いやりの心が大きく育ったと感じる。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

5 歳児コスモス組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音・自然

鳥の鳴き声・鳥の巣の観察（鳥の巣は自然のものでできている）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

○6月9日に鳥に詳しい、野鳥の会の方に来ていただき、鳥の話を聞くことができた。今まで様子を見てきたロータリーにあるツバメの巣を双眼鏡を借りて見ることができ、園でも皆で見れる望遠鏡がほしいと天体望遠鏡を購入した。今まで遠くからしか見られなかったが望遠鏡を使うことで巣の中の様子やツバメの顔まで見ることができた。

2. 活動スケジュール

6月16日、望遠鏡が届いたのでロータリーの燕の巣・前日に見つけたカラスの巣を観察しに行く。

6月24日、観察していたツバメの巣に赤ちゃんが生まれていることに気が付く。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

天体望遠鏡・oppo・電子黒板

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

望遠鏡を使ってツバメの巣・カラスの巣を観察した。

望遠鏡を使ってツバメの巣の観察。鳥の鳴き声を身近に聞くこともでき、鳥の巣は土や木の枝でつくられていることも深く知ることができた。また自分たちで巣を生活素材でつくる姿もみられた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

16日…望遠鏡の映像がoppoに映ると「すごい！うつつ」「いま2わいるね、おとさんとおかあさんかな？」と釘付けになって観察していた。「たまご温めてみたいだね」とツバメの様子から考察するお子さまもいて「たまごあったらいいね！」と優しい笑顔のお子さまたちだった。カラスの巣を見てみると「つばめはつちだったけど、からすはえだがおおいね」と材質の違いに気がついたり、「でもはっぱはいっしょだね」「やわらかくなるのかな？」と材質の違いや葉っぱが使われている理由を考えている様子が見られた。

24日…巣の中を観察すると「なんだかあかちゃんいるようにみえるよ!!」と驚くお子さま達。「ほんとだ！くちぱくぱくしてるね」「いまおかあさんがエサあげてたよ!!」と目を輝かせながら観察していた。園に戻ると図鑑でツバメの赤ちゃんのことを調べる様子が見られ、「大人になるまで20日間かかるんだって!」と話し合う様子も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

16日…実際に巣を観察すると、土や枝だけでなく葉っぱも使われていることに気が付き、「何で葉っぱを使っているのかな?」「葉っぱがあった方が柔らかいからかな!?!」「固かったら卵割れちゃうもんね!」等と、鳥が巣を作る時の工夫に気が付く姿が見られた。「早く赤ちゃん見てみたいね!」と愛着を持って大切に關わっており、生命の尊重・自然を大切にする心の育ちを見ることができた。

24日…巣の中に赤ちゃんを発見すると声を出して感動する様子のお子さま達。ずっと見守ってきたことでツバメ（生き物）への愛情や共感性も育ち、優しい気持ちを持って接しています。園に戻ると図鑑を使ってツバメの赤ちゃんの事を調べる姿が見られ、大人になるまで20日ぐぐらいかかると自分たちで調べる主体性も育っていた。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

5歳児 コスモス組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

<自然> 幼虫から育てていたカブトムシと一緒に遊べる空間をつくる

<音> かやから聞こえるカブトムシの羽の音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自然に近い形で飼育してあげよう！

幼虫から一生懸命お世話していたカブトムシ。原造園さんからいただいた木の上で遊ばせたりしている姿から、大きなスペースで放し飼いが出来るように、自分たちも中に入れて一緒に遊べるようにした。

2. 活動スケジュール

7月1日…ホープ組と一緒に看板なども制作し、カブトムシハウスを作る。一緒にルールを決め、中に入ってカブトムシと触れ合えるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

かや・枯れ木・ダンボール

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

かやの中に段ボールを敷いて、土がたくさん入った段ボール・枯れ木をいっしょにおいて放置飼いが出来るようなスペースを作った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ホープ組のお子さま達と一緒に看板作りを行った。枝をちょうど良いサイズに切ったり、ひらがなの形にボードを塗って、ここに置くんだよ！と教えてあげる姿が見られた。ルール決めもカブトムシにやさしくしよなや5ふんこうたいにしよう！等自分たちで話し合って決めたり、意見が割れたところでは先生やお友だちにアンケートを取って決める姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

異年齢での関わりの中で同じ目的を持って行動する中で協調性が育まれました。また今までの保育園生活での経験から道徳性や規範意識の育ちも感じられ、ホープ組の友達に優しく関わったり、コスモス組の友達に手伝ってほしいと声を掛けたりとお互いに学び合い、育ちあっている姿が見られました。カブトムシに対しても優しく関わってあげたいという気持ちが見られ、命を大切にする気持ちが育った。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

5歳児コスモス組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然・・・育ててきた稲（お米）の観察をする

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもたちの興味関心、園の特色など）
どんな形・大きさの花やお米が出来るのか気になっている様子が見られる。カブトムシを顕微鏡で観察する様子も見られるのでお米も顕微鏡を使って観察してみた。

2. 活動スケジュール

9月5日…稲の観察

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

電子顕微鏡・アイパッド・oppo

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

稲を部屋に持ってきて顕微鏡で観察する。穂を一粒取って顕微鏡で観察する。緑の皮を剥いで中身も観察して見る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

穂が出来ると喜びながら観察したり、手で触ってみる様子が見られた。顕微鏡で観察してみると白い花を発見。「きれいだね、かわいい♪」と言いながら観察していた。途中稲に小さなクモを発見し「おこめたべられちゃう」と心配する姿が。本当にお米食べるかな？と聞いてみると「ずかんですらべてくる」と図鑑で調べ始めるお子さま達。「くもはむししかたべないってかいてあるから、だいじょうぶかな？」「おこめをたべるむしからまもってくれるかも！」と話になり、取らずに「おこめまもってね！」とそっとしておくことにした。その後一粒だけ穂を取り、顕微鏡で見たり、手で川を剥いで中身をみると「そとはみどりだけどなかはしろだね」「おこめだ！」「でもちっちゃい！まだたべられないね」と色や中身の大きさを確認することができた。これからどんどん大きくなるのか？黄色、茶色、白色になっっていくのか楽しみだねと話していた。



ださい。)

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

稲の成長を喜びあう姿が見られ、皆でやった達成感等を感じることができた。また顕微鏡もどうやって使うんだっけ？と確認しながら「順番でやろう」と話し合うコミュニケーションの育ちが感じられた。途中クモを見つけたときは慌てる姿も見られたが「本当にお米食べるかな？」と声を掛けると図鑑で調べるなど、日頃の活動の中で疑問に思ったことなど調べる習慣がつき、問題解決力も育ってきたと感じた。調べた結果「守ってくれてるのかも！」と話になり「クモさん守ってね！」と生き物に対して優しく語りかけていて生命を尊重する気持ちも育っていると感じた。中身を見てみると米の小ささに驚きながらこれからどうなっていくのか想像を楽しんでいて、これからも期待感を持って活動に取り組んでいけそうな様子だった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

5歳児 コスモス組

施設番号	66-0721
施設名	多摩境敬愛保育園
施設所在地	東京都町田市4464
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

地球の自然を知ろう！（鳥が飛んで行った南ってどんな国？）

9日…南ってどこ？

10日…地球温暖化って？

11日…日本では鳥の済む森が少なくなってる！？

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

観察を続けていたツバメの巣が落ちてしまった。再度ツバメのことを調べると巣立ちの際に巣を落としていくことが発覚。巣だったツバメは“南”へ行くとのこと。みなみてなんだろう？どこのことかなと疑問に感じている様子の子ども達にアースボールを使って南がどこなのか一緒に調べてい見ることになりました。そこから、地球の自然現象、地球温暖化問題に興味をもつ

2. 活動スケジュール

9日…アースボールに触れる。

10日…温暖化について調べる。

11日…温暖化による森林の減少率を考える。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

アースボール・電子黒板・アイパッド・変換コード・変換機（送受信機）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

9日…アースボールを使って南がどこなのか調べてみる。その後、様々なアプリを使って地球の様子を見てみた。南になぜいくのか、南の国の自然を考える

10日…お家で温暖化について調べてきたお友だちがいたよ。みんなでも調べてみよう。

11日…温暖化が進むと鳥の住む森も少なくなってしまう。日本はどうか？

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

(活動の内容、活動中見られた子どもたち、保育者との関わり等)

9日…アースボールを見ていると「これみたことある！にほんじゃない？」と日本を見つけるお子さま達。南はこっちのだよとお子さま達に伝えると「おーすとりありあってかいである！」「こはおおきいね」とお話していた。その後にはアプリを起動して見てみると、「雲がうごいてるね！」「こんどはいろがついたよ！」「このいろはどんないみ？」「と興味津々のお子さま達。この色は温度で、赤色のほうがあついんだよと伝えたと「じゃ、みなみがあついんだね！つばめさんもあついにいきたかったのかな？」とツバメが移動する理由を考察する姿が見られた。

10日…家で温暖化について調べてきたお子さまがいて、みんなの前で発表してもらった。CO₂(二酸化炭素)が増えることで温暖化(地球が熱くなる)が進んでしまうことがわかり、電気を使わずに済むことが大切だと教えてもらった。次に皆で電子黒板を使いながら調べてみると、電気を作るときにCO₂が出る事、車や工場の排気ガスにも含まれることがわかった。部屋の電気をつければなしにしない、冷蔵庫をあけっぱなしにしない、車を使わずに歩いて過ごす等意見を出し合っていた。

11月1日…2日間アースボールを調べている中で日本は緑(安全等の評価の色)が多いことがわかったが、オレンジになっているバーターンを見つけた。その項目は森が少なくなっている割合(森林減少率)で大好きな鳥たちが住む森が少なくなっている事に驚く様子のお子さま達。どうしても森が守れるのか調べたいと電子黒板で調べることになった。どうしても森が少なくなっているのか？それはみんなのくらしにひつようなものが“き”からできているからでした！「おりがみやといれつとぺーも“き”からできてるんだって!!」「えんぴつやのーともだつて!!」

「でも“もし”がへつたらもうにすんでるとりやいきもののおうちもなくなっちゃう…」どうしたら解決するか考えてみると

「まあ、ごみしゅうしゅうのひとがきたとき、さくすあつたね！ かみからかみができるって、たてたよ！」

「そしたら“き”をきなくなっていくね！」「かみをりさいくるしう♪」と今までの経験から自分たちの出来ることを考えていま

17-



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

9日…ツバメは、南へ飛んでいく！というお子さまが、調べてたどり着いたことで、「南ってどこ？」の疑問から、地球儀を使って世界を見てみました。

そこから、温かい方向であるということ、では、世界からみたら？など大きく視野を広げた中で、地球温暖化が、鳥たちにも影響があるかもしれないこと、自分たちの生活にも影響しているということ、お子さまたちは、まだ知りません。4月から過ごしている中で、知らないことを自分たちで知っていく楽しさをコスモスさんは知っています！！明日地球温暖化って調べるんだよね！とわくわくしています！

どんな発見をしていくのかとても楽しみです。

10日…調べてきたことを、みんなで、発表することや、それをみんなで聞くこと、それについてみんなで調べること、

自分たちが主体的に学んでいく環境が、鳥のことから大きく伸びました！お友だちが発表する姿に「ほくもしらべたいとおもっていたんだ」「ほかにわかったことがあったら発表したいな」と意欲的な姿も見られました！

11日…地球温暖化について調べていく中で自分たちが使っている物が木から出来ていることを発見したコスモスさん。同時に人が木をたくさん切って鳥や生き物が住んでいる森が少なくなっている問題に直面しました。大好きな鳥や自然を守るためにはどうしたら良いかと考えを巡らせ、過去の経験から出来ることを考えるなど思考力の芽生え・生命を尊重する気持ちが育まれていました。また家庭でも調べたり、皆で共有して一緒に解決しようとするなど協調性や自立心も育まれています。